

“自分らしさ”を生かした未来へ



CONTENTS

特集：

「性別役割分業を見直そう」

1. 一家の大黒柱は一本より二本のほうがいい
中央大学法学部教授 広岡 守穂
2. 男も女も家事・育児
～積極的に家事・育児をしている県内の男性にインタビュー～

センター事業報告

- ・下村満子トークサロン
- ・働く女性のための応援専科
- ・地域女性リーダー養成講座
- ・平成12年度自主研究報告
「福島県の高校生のジェンダー環境に関する研究」

センター事業紹介

- ・センター秋講座のお知らせ
男女共生講演会 講師 筑紫哲也
日米女性指導者交流プロジェクト
ほか 各種講座のご案内、開催スケジュール
- ・ボランティア紹介「見学案内ボランティア」

性別役割分業を見直そう

一家の大黒柱は 一本より二本のほうがいい

中央大学法学部教授
広岡 守穂

家族それぞれが自己実現を大切にしながら、
相手の生き方を尊重する
これからはそんな時代です。

7月に新しい単行本を講談社から上梓しました。タイトルは『父親であることは哀しくも面白い』。父親として5人の子どもの子育てにかかわってきた思いを綴ったエッセイですが、わたしなりにこれまでとまったく違う、新しい父親像を描いたつもりです。

これからは一家の大黒柱は一本でなく二本という時代です。夫も妻も、ともに働きともに子育てにかかわる。そして親も子も、また夫婦もみんながお互いに自分自身の自己実現を大切にすること。そしてだからこそ相手の生き方を尊重する。そんな時代です。

学校の勉強ができるのだの、友だちと仲良くするのだのということよりも、こころざしの高さや器量の大きさを大切にして子どもを育てたいと思います。

貧しい「父親論」は、もういらぬ

いま子育て中の若い親には、かつてのシングル親の感覚に通じるところがたくさんあります。だから一見家族のつながりが弱くなっているようにみえます。他方で児童虐待が社会問題になり、子どもの不登校や引きこもりが深刻になっています。そこで心ない人たちは、親が自分勝手になったから児童虐待がふえたのだとか、あまり自由にしすぎるから子どもがわがままになったり非行に走ったりするのだと非難します。その次に出てくる決まり文句は、母親が社会に出るのもいいが、そこそこにするべきだ、女性はもっと家庭や子どもを大切にしなければ

ならない、という言葉です。

しかしそれは筋違いもいいところです。

そういう短絡的な議論を好む人には新しい父親像がみえていないのです。その証拠に、そういう人たちはしきりに「父性の復権」といった言葉を口にします。かつてのような、母親は無償の愛情で子どもを包み、父親は社会のきびしさを子どもに教える、という古い父親論の焼き直しです。こんな父親論がくり返しくり返し登場しています。

わたしはこの種の父親論は、いまや根本的に間違っていると考えています。父性の復権などといったも、父親が居間でふんぞり返っている様子が手に取るようにみえるだけです。自分一人家族から浮いていて、子どもといっしょにいると間が持たない。会話さえ成り立たない。そんな様子が目に浮かびます。父性の復権もへったくれもありません。

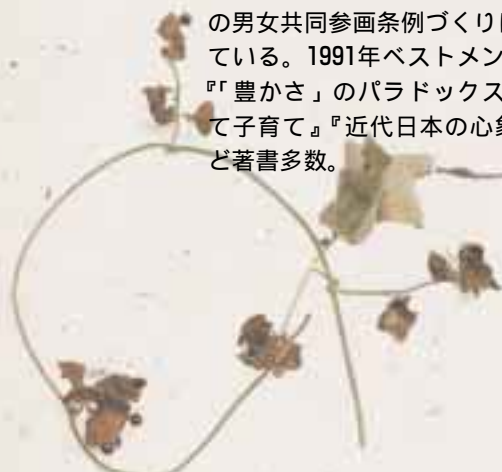
どうしてこんな貧しい父親論ばかり幅をきかせているのでしょうか。

それは「男は社会、女は家庭」という性別役割分業の世界にどっぷりとつかっているからです。実際、これまでのたいの父親論は、社会的に成功した男だったら家庭でどんなふう



広岡守穂（ひろおか もりほ）

1951年生まれ。中央大学法学部教授。専攻は政治学・日本社会論。夫婦で女性の自子育てを応援する雑誌『家族とくらし』を出している。最近は自治体の男女共同参画条例づくりにかかわっている。1991年ベストメン賞を受賞。『「豊かさ」のパラドックス』『男だって子育て』『近代日本の心象風景』など著書多数。



振る舞うだろうか、ということ暗黙の大前提にして書かれていました。まるで会社の社長が社員を統率するみたいにして、家族を教え導く父親が理想とされてきました。
とはいつても、もちろんすべての男が出世できるわけではありません。ですが、いや、だからこそ、せめて家庭では社長のように振る舞いたい、というわけです。

「こういふ考えは間違っています。」

子と妻の「自子育て」を

支える自覚を

これからの父親に必要なのは、子の（そして妻の）自子育てを支えるという自覚です。ただしそれは自由放任でもないし、干渉しないというところでもありません。厳しく育てないということでもありません。新しい父母の像が確立されていないので、しばしば子どもの（そして妻

の）自由を認めることが放任や干渉と混同されています。自子育てをささげるといふことは、なんでも本人の言うとおりにするということではありません。

子どもの自由な生き方を尊重しようとするならば、その分日常の一家団欒が大切になります。当たり前です。日常的な、深い心のつながりがあつてはじめて、子どもの自由が理解できるのです。そのためにも子育てを楽しまなくてはならない。父親が子育てを楽しまなくてはなりません。もちろん家事もするべきです。日ごろ家庭をかえりみないでいて、子どもの自由を尊重するなどといっても、子育てをさぼっていることに対する弁解しかありません。

わたしたちは学生結婚しました。まもなく子どもが生まれました。二人目の子どもが生まれたときも、わたしはまだ学生でした。だからお世辞にも一人前とはいえませんでした。わたしは26歳のとき、やっと研究者として大学に就職

が決まりました。それからだいぶ経ってつれあいが世に出ました。世に出るといって大袈裟ですが、フリーで編集の仕事をはじめました。38歳でした。それから十年たって、彼女は思いがけなく県議会議員になりました。自分たちはお互いにお互いの自子育てをささえあつてきたのだと思います。

立派な父親とは

わたしは父親として精いっぱい生きてきましたが、助教になるまでは社会人としては半人前でした。不安がいっぱいでした。自信もありませんでした。だからつくづく思うのですが、立派な社会人であることと立派な父親であることは、あまり関係がないのです。それは立派な母親であることと立派な社会人であることが無関係なのとおなじです。

立派な父親であることは、ちゃんと子育てをするだけのことではありません。妻が立派な社会人になるのを支えること、それ抜きに立派な父親はありえません。良妻賢母を裏返しにしてみればわかります。

これからの男女はお互いにお互いの自子育てを支え合つ。そしていっしょに子育てをする。それがいいのです。炊事洗濯も半分こにすればいい。

一家の大黒柱は二本です。

男も

女も

家事・育児

「男は仕事、女は家庭」「この言葉のような性別による役割分担意識は、まだまだ根強く残っていますが、男女共同参画社会を実現するためには、そうした意識を変えていくことが必要です。そこで、今回は積極的に家事や育児をしている県内の男性にインタビューしてみました。」



たきざわ たくし
滝澤 武さん

長野県出身。3人姉弟の長男であるが、おつれあいの出身である福島市内に在住。中学、高校の非常勤講師を経て、現職は大学教員。6歳になるお子さんとの3人暮らし。

家事や育児はどの程度していたのですか？

子どもが生まれた頃も含めて、最初の頃は、保育園への送り迎え、食事の準備と後かたづけ、子どものミルクをやったり、洗濯したりと彼女と半分ぐらいの割合で分け合っていました。今では、原則として、食事の後かたづけは、料理をつくらなかった方がすることになっていますが、洗濯干しが苦手な私のかわりに、つれあいがそれをしているときに

は、後かたづけもするようになったりと、それぞれが向いている仕事を担当するようにになりました。それでも、どちらか一方に負担がかかるのではなく、仕事の量としては半分ずつぐらいです。

家事や育児をするようになったきっかけは何ですか？

それは、お互い仕事を持っていましたから、結婚してからは自然と家事や育児をするようになりました。私たちはつきあっていた頃に、結婚後の生活について話し合ったことがあるんです。そのとき彼女は、「結婚や出産をしても当然仕事は続けたい」と言っていました。私は、結婚しても仕事を続ける女性と一緒にいたいと思っていたんです。だからというわけじゃないですけど、その彼女と結婚し、当然共働きになりましたから、時間がある方が率先してやるようになったのです。

なぜ、結婚しても仕事は続けたい女性と結婚しようと思ったのですか？

私が小さい頃は、父親だけが外で働いてそのお金で生活していたのです。ところが、その父が急に亡くなってしまい、今まで働いたこともない母が外でお金を稼がなくてはならなくなりました。母は大変苦労しているのを見て、経済的な柱は2つあった方がいいと思ったのです。ですから、仕事を続ける女性と結婚しようと思っていました。

男性が家事をするということについて、抵抗はありましたか？

逆に、なぜ、女性だけが家事・育児をするのだらうって思っていました。ですから、抵抗は全くありませんが、めんどうだと感じることはありません。

男性が家事や育児をしているのを見てまわりの反応はどうでしたか？

保育所で布のおむつを使っていたので、家でも布のおむつにしてみました。その布のおむつを洗濯して干していたときに、近所のおばさんが、男なのによく家事をするねえと感心していました。また、私が子どもをだっこして、1歳6ヶ月健診に連れて行き、栄養士さんに離乳食について教えてもらったときのことですが、栄養士さんの説明はとても分かりやすく、いいこと聞いたなあって思っただけで帰るうとしたら、「でも、お父さんは離乳食なんて作らないですよ」って言われたんです。毎日育児しているのに、なんでこんなこと言わ

れなきゃいけないんだとムツとしましたよ。

「メンズリブふくしま」に入っているそうですが、どのような活動をしているのですか？

男同士が集まって、仕事の話や男らしさ、男性の育児についてなど、自由に合う、「男の井戸端会議」というものを不定期で行っています。人に言えないような悩みをみんな同じように持っている、それをきかだして話し合うことはとても気持ち良くなります。

性別にとらわれないこととは？

生活していくのに、男だからとか、女だからということとは関係のないことだと思えます。二人で協力した方がいいと思うし、そうしないとやっていけないこともあります。

子どもと一緒に、よくテレビの子ども向けの教育番組を見るのですが、何かにつけて、お母さんがでてくるんですね。子どもとお母さんはセットとして考えられているんです。そういう言葉を聞くと、「お父さんだっかってやってるよなあ」と子どもにも愚痴みたいなことを言うんです。ある全国紙の新聞に、「教育番組でいつも歌われているお母さんという歌詞を週一回ぐらいはお父さんに変えてみては？」と投稿したところ、今はその歌詞が変わっているのです。私が変わえた、なんて思っているのですけど（笑い）。

さとう
みのる
佐藤 実さん



宮城県出身。福島県郡山市内の情報通信関係の会社に勤務。9歳、5歳、3歳の3人のお子さんとおつれあいとの5人家族。平成11年3月から平成12年2月まで、育児休業をし、1年間「専業主夫」を経験。

育児休業されたのはどういった理由からでしょうか？

まあ、理由はいろいろあるんですけど、妻のことが大きな理由の一つですね。私は、3人目の子どもが1歳から2歳の頃にかけて育児休業したのですが、それまでは妻が育児休業していたのです。育児休業期間が終われば、その都度職場復帰するのですが、それは肉体的にも精神的にもとても大変なので、妻にももう職場復帰のことで悩まなくていいようにさせたかったことと、私もちょうどそのころ勤務地が変わり、それに伴い仕事内容がガラリと変わる事になり、さらに、子どももすっかり向き合う最後のチャンスだと思い、「それじゃあ、パパが休職しよう」となったのです。私の会社は、3歳まで育児休業できたりして、恵まれていたこともありましたけど、もし、制度が整っていないくとも今回は、自分が育児をするんだと思っていました。相当、決意は固かったですよ。

育児休業を宣言したときのまわりの反応はどうでしたか？

実際に休業する半年前から、まわり

に「今度はオレが育児休業とるから」なんて言っていたのです。言い始めた頃、まわりは「あっ、そうなの」という反応でした。その時は本気で取るわけがないと思っただけでしょう。でも、いよいよ休業する間近になると職場や家族でも、「考え直したら？」という反応が出てきました。「なぜ、男が育児休業するのか？奥さんがいるじゃないか」とか、「今の時代はやってるからなんだろう？」または「育児休業制度がなくならないようにするためなんだろう？」といった、ちょっと変なこととも言われましたけど、自分の考えや状況を説明したら納得してくれました。もちろんはじめから理解してくれた方もたくさんいましたけどね。

「専業主夫」になることへの抵抗はなかったのですか？

独身時代からも掃除・洗濯・炊事はしていたし、前の2人の子どもの時も休みの日は食事を作っていたので、自分にもできると思っていたこともあり、「専業主夫」への抵抗はなかったですね。自分は大丈夫だとたかをくくっていたところ、やってみるとこれがかなり大変なのです。2人目まで私は、仕事をしつつも家事・育児をちゃんと手伝っていると思っていたのですが、あれでは、「家事・育児している」とは言いえないだなんて思いましたよ。

「専業主夫」としてのあなたを見て、まわりの反応はどうでしたか？

近所のお子さん連れのお母さんたちの輪にもわりとすんなり入れました。子どものことで学校や病院に行ったときなんかは、「お母さんどうかしたの？」って言われることはありませんでした。

おつれあいの方の生活を含め、どのような変化があったのでしょうか？

私の妻は会社でいろいろ言われたと思うんですけど、家庭に帰ってきて、私にいちいち言うこともなかったですね。妻は2人の子どもの育てた経験から、もちろん私の大変さは知っていたし、だから余計な心配はかけたくはなかったんでしょね。それと、私が育児休業してから夫婦で話すことがとても多くなりました。毎日子どもと顔を合わせているので「大人」と話をしたいのですよ。私が働いていたとき、妻も私に話しかけたかったら、仕事を反省していました。妻は私の話をとても親身に聞いてくれたので、精神的に本当に助かりましたよ。男性も「仕事で疲れた」とか言わないでしっかり話を聞いて妻や家庭と向き合うことはとても大事なことだと思います。

「性別役割分担意識」についてはどのように思われますか？

生活していくのに、性別なんて気にすべきではないと思うんです。自分がやりたいことをできるようにすることが大切で、変に縛られるべきではないと思っていますので、子どもには「女らしくしろ」なんて言ったことはありません。

インタビューに応じてくれたお二人のように、「男だから、女だから」ではなく、「個人」を基準として生活している姿からは、性別にとらわれず、自然体で協力しあえる関係を作ることが大切だという、男女共同参画社会の実現に向けたメッセージが感じられます。

「男である、女である」といった性別は、一人一人のライフスタイルを決定づけてしまうものではないのです。性別にとらわれない生き方のほうが、自分らしく生きられるのではないのでしょうか。

1年間の育児休業で得たものとは何でしょうか？

子どもと接することで、物事を広い視野で考えるようになったと思います。その他にもたくさんありますが、今家庭がとても幸せであることが一番の得たものと言えるのではないのでしょうか。私も妻もこれまで以上に子どもやお互いのことを深く理解し合えたり、子どもも今のところ素直に成長していますしね。でも、家事・育児の大変さは、やってみないとわからないですよ。会社とか、自分のおかれている立場とかの問題もありますが、男性はぜひ、育児休業してみたいかがでしようか？大変ですけど、得るものはすごく多いと思います。

第2回未来館トークサロン 「下村満子と語る会」開催報告

6月28日(木) 18時～20時
いわき市平市民会館



▶行動することが大事です！と語る下村館長

今年1年かけて県内各地で開催する国際的ジャーナリスト・下村満子館長と県民の皆さまとのトークサロンでは、毎回活発な意見交換が行われています。今回は第2回目のいわき会場におけるトークを要約してご紹介します。

政策決定の場に女性を！

いわき市女性 主婦の家事労働に対する社会的評価が低いのではないかと思います。育児を例にとると、保育所の保育士さんはきちんと給料をもらっているけれど、自宅で育児をしている主婦には何の報酬もないのです。

下村 アンペイドワーク（無報酬労働）の問題ですね。例えば、昔は農家のお嫁さんなどは農業の合間に家事も子育てもやって…と大変重労働でした。今では妻の報酬はいくら、週に何日は休日を取る、といった家族経営協定を結ぶ農家が少しずつ出てきています。男女共同参画の発想から考えれば、夫と妻が家事を含めた労働配分をきちんと話し合い、互いに納得した上で分担すべきでしょうね。また、こうしたアンペイドワークを、法律を作ってきちんと評価して欲しいという要望は以前からあったのですが、未だ

になかなか実現しないのは、政策決定の場に女性がないからです。会社でも行政でも教育現場でも、決定は男性がして、女性は男性の手足となって、男性が決めたことを実行する役割しか与えられていない。そうした状況に甘んじている限り女性の立場に進歩はないのでは。もっと多くの女性を責任ある立場に送り込むための抜本的改革が必要だと思っています。

いわき市女性 地域の会合などでは未だに女性は男性に従うものという風潮があります。

いわき市男性 伝統的考えに縛られた生活を変えようと活動している人達がネットワークを結んで活動できれば大きな力になるのでは。

下村 今の日本は、男女共同参画社会の実現に向けた過渡期にあり、理想と現実のギャップが女性達に大きな負担をかけています。しかしそれにめげずに勇気を持って「行動する」ことが大事。そして共鳴する人々の輪を広げてゆく。一人で行動するのは大変ですがネットワークを広げてゆけば行動がしやすくなります。

男たちの逆襲、米国メンズリフ事情

いわき市女性 3歳児神話には科学的根拠がないと聞いたことがあります。

下村 米国では「神話に過ぎない」と言

われているようです。おもしろいことに米国では男性たちが「子育ての権利」を獲得しようとする動きが始めています。「子育ての楽しみを女性だけが味わっているのは不公平」、「なぜ男性だけが馬車馬のように働いて妻を養わなければならないのか」という運動です。子育ては、「女性でなければならぬ」ということではないと思います。むしろ、父親と母親が協力してしっかりした「育て方」をするということが重要なのではないでしょうか。

男性も女性も共に考えよう！

下村 こんにちは。このトークサロンは県民の皆様と気楽な雰囲気で見聞交換したいという思いで開催しました。ぜひ率直なご意見をお聞かせ下さい。

いわき市女性 男女共同参画社会は、女性のみならず男性の協力がないと推進が困難だと思います。今後男性にも声をかけて共に学ぶ必要があるのでは。

下村 そのとおりです。当センターは「男女共生」センターですので、ぜひ男性にも多く活用していただきたい。また、男性に來館していただけるような工夫もしたいと思っています。



いわき会場では、25名の参加者が活発な意見交換を行いました

働く女性を対象に、日頃のストレスと上手につきあう方法やその解消法を知っていただくため、平成13年6月30日(土)、7月7日(土)、20日(金)、28日(土)の4日間コースで、「働く女性のための応援専科」ストレスたまっていませんか？」を開催しました。

その後2日目、3日目には働く女性を守るための法律やサポート制度、ストレスについて心理学的な面から学びました。最終日の7月28日(土)は、「アロマテラピーでリラックス」自分でできるストレス解消法」と題して、ハーブティーを飲んだり、洗顔料などを作ったりと受講者の皆さんに実際にアロマテラピーを体験していただきました。



ハーブティーを飲みながら、アロマテラピーについて説明をうけました

平成13年度 働く女性のための応援専科 ～ストレスたまっていませんか？～

第1回地域女性リーダー養成講座開催報告

前期 6月23日(土)～24日(日) 後期 7月14日(土)～15日(日)
福島県男女共生センター

男女共同参画社会の形成を目的として地域で活躍する女性リーダーの養成を目的とした「第1回地域女性リーダー養成講座」が開催され、県内各地から集まった23名の受講者が女性リーダーとしてのレベルアップを目指して講座に取り組みました。

《この講座の今後の開催日程》

第2回 前期 9月8日(土)～9日(日)	後期 9月29日(土)～30日(日)
第3回 前期 10月27日(土)～28日(日)	後期 11月23日(祝)～24日(土)
第4回 前期 2月2日(土)～3日(日)	後期 2月16日(土)～17日(日)

前期・後期とも各1泊2日の講座では、地方分権論、県長期総合計画「うつくしま21」や「ふくしま男女共同参画プラン」の概要、企画表現力のスキルなど、女性リーダーとして必要な基礎知識について学んだほか、男女共同参画社会のあり方や日本型福祉社会の問題点を取り上げたグループ討論が行われ、参加者からは「具体的な話が参考になった」、「県内各地の参加者と意見交換ができ、有意義だった」等の声が聞かれました。

また、最終日の下村館長による対話討論では、女性の政治参画の意義や21世紀のリーダーの条件について真剣な討議がなされました。



真剣にグループ討論する参加者の皆さん

平成12年度自主研究

福島県の高校生のジェンダー環境に関する研究

結果要旨

福島県男女共生センターでは、福島県において男女共同参画社会の形成を進めていく上での問題点や解決の方法を探るため自主研究を行っていくこととしています。今回は、平成12年度の研究成果の要旨を御紹介します。

本研究では、福島県の高校生が置かれた環境に、ジェンダーに関する問題が存在するか、もし問題が存在するのであれば、それはどのような問題なのかを明らかにし、男女共同参画を進めるに当たって本県が今後取り組むべき課題を提示することを目的として、質問紙調査を行いました。福島県の県立高校のうち36校にご協力いただき、回答率は生徒が85.2%（配布4,810人中、回答4,097人）教員が69.2%（配布960人中、回答663人）でした。

教員は生徒を「平等」に扱っているという意識をもっている

学校のさまざまな場面における生徒の男女の地位について質問したところ、7割以上の教員は男女が「平等」であると評価しました。この背景には、教員自身が生徒を「平等」に扱っているという意識があることが推測されます。

しかし、一方で教員の一定割合は、生徒に対してジェンダーで区別した扱いをしており、生徒はそれを認識しているという結果が得られました。教員が生徒を区別して扱っている割合は、「力仕事は男子に頼む 約9割」、「女子が落ち込んでいるときにはやさしく励ます 約5割」、「男子なら浪人してでも希望の進路を目指すように指導する 約3割」などでした（図1）。

また、教員の中でも、性差についての思い込みが強い（性差について正しい知識を持っていない）群は、生徒をジェンダーで区別した扱いをする傾向がみられました。このことから、性差について偏見を持っていることと、性別役割分業を肯定したり、生徒を性別により区別して扱ったりすることが関係しているのが明らかになりました。この結果は、生徒が教員から性別にかかわらず平等に扱われるためには、教員の性差観を改善することが有効であることを示唆していると考えられます。

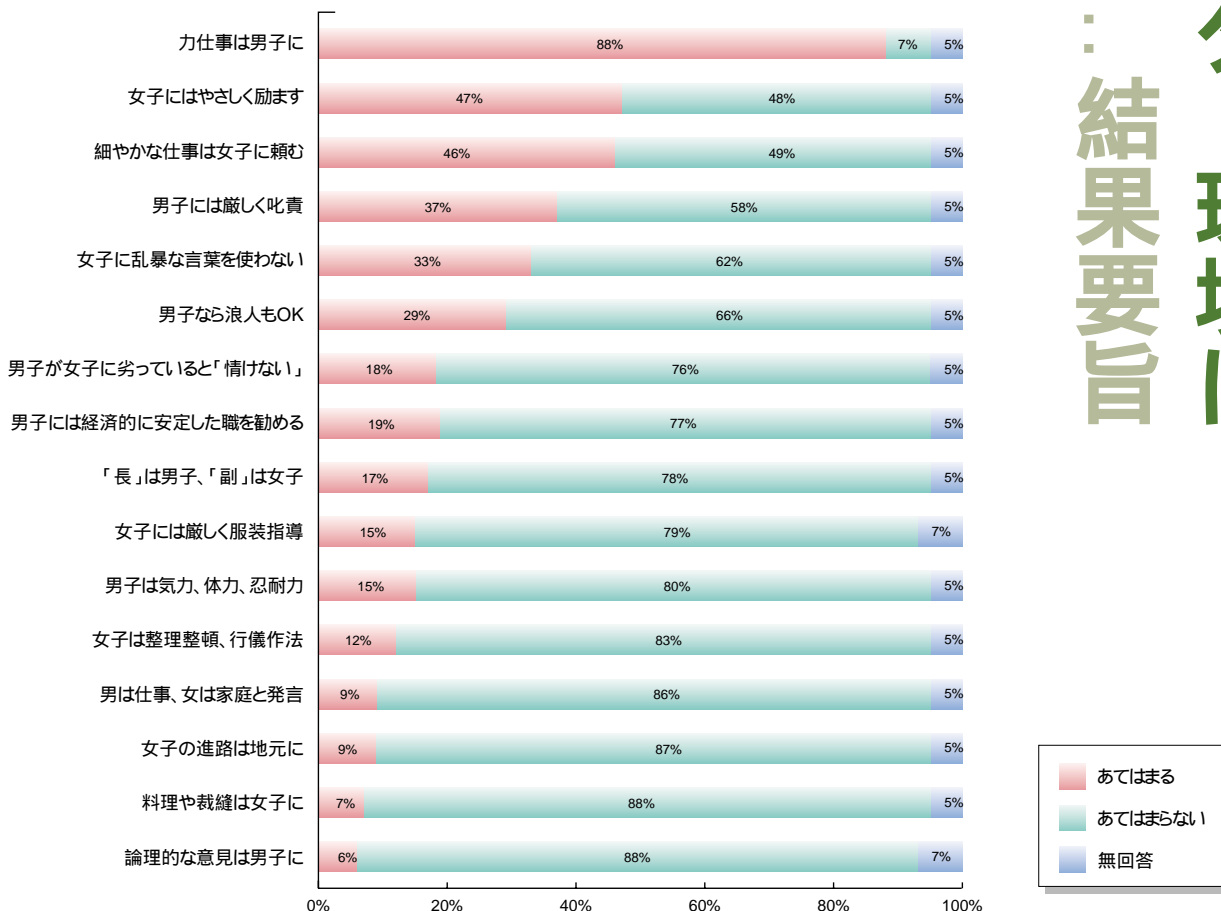


図1 生徒の性別によって扱われ方に違いはあるのか（教員についての調査結果）

教員が考える「平等」の意味はどうなっているか？

教員が理想とする夫婦の役割分担パターンは「分担型」が過半数であり、「女性に責任のある仕事を任せるべきではない」という考えを否定する割合も約9割に上るなど、教員は、必ずしも固定的な性別役割観に縛られているわけではないようです。

しかし、「男女を性別によって区別することは差別につながる」という考えを約4割の教員が否定し(図2)、「男女の特性を生かした教育をすべきである」という考えを過半数の教員が肯定しました(図3)。このことから、一部の教員の考える男女平等の内容は、女子差別撤廃条約が克服すべきものとしたいわゆる機能平等論(男女には異なる特性や役割があるがそれぞれ社会で必要不可欠な役割を果たしている)ので平等だと考える方(1)に陥っている場合があると考えられます。

生徒は、自分が置かれた環境の中にジェンダーによる偏りがあることを察知しているものの、「女は女らしく、男は男らしく」という考え方について約4割が「同感しない」と答えるなど、その偏りを必ずしもそのまま肯定しているわけではないと考えられます。

男女共同参画に関する諸施策についても、生徒は教員に比べてより積極的に必要性を認めました。

「ジェンダー」については教員の約3割、及び生徒の約6割が「まったく聞いたことがない」と回答しました(図4、図5)。一部の教員及び生徒の男女平等に関する考えは、基本的概念の理解の上立ったものではない可能性があると考えられます。性差に関する思い込みが生まれる背景には、こうした基本的な情報の不足があるのかもしれない。

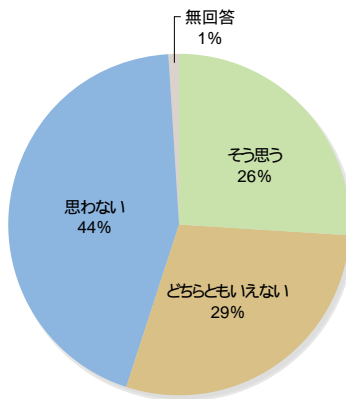


図2 男女を性別によって区別することは差別につながると思うか (教員についての調査結果)

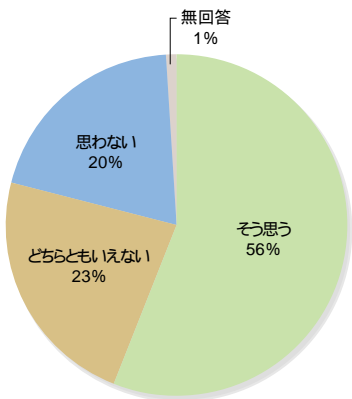


図3 男女は異なった特性を持つのでその特性を生かした教育をすべきであると思うか (教員についての調査結果)

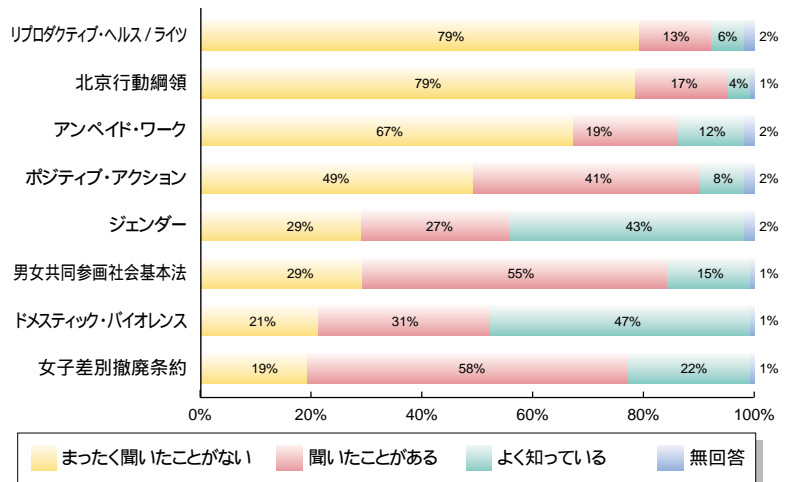


図4 男女共同参画に関する用語を聞いたことがあるか (教員についての調査結果)

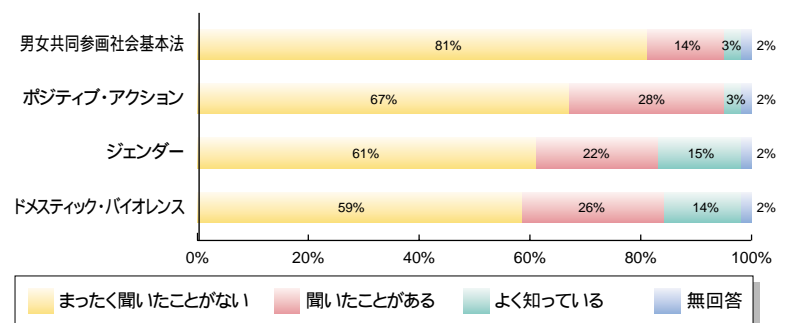


図5 男女共同参画に関する用語を聞いたことがあるか (生徒についての調査結果)

ジェンダーフリーへの真の理解を深めるために

教員は、生徒を男女平等に扱つべきことは当然ですが、さらに、生徒に男女平等を教えるに当たって、ジェンダーによる二分法や男女の特性論の問題点を理解した上で自分の考えを確立できるように配慮することが期待されます。そのためには、教員が男女平等に関する思想的・系統的に理解でき、性差に関する思い込みを解消できるような研修の機会を設けるとともに、教員自身によるジェンダーフリー教育の実践に関する研究を進めることが必要でしょう。

また、それと同時に、行政としては、ジェンダーに関する学問的成果や施策の動向などの情報を豊富に提供することにより、学校のみならず家庭や地域での男女平等に向けた意識改革を進め、若い世代をジェンダーから解放するための環境を整える努力が一層求められると考えられます。

平成13年度 男女共生講演会
日本政治の行方と男女の未来
 ～激動の21世紀をどう生き抜くか～
 講師：ジャーナリスト 筑紫哲也氏

開催日/10月6日(土) 午後2時～4時
 開催場所/福島県男女共生センター 研修ホール
 定員/400名程度(先着順)
 入場料/無料
 参加対象/テーマに関心のある県民
 無料託児(事前予約制)あります



自治体の議会や行政など公的
 分野で決定される政策・方針は、
 自治体で生活する男女双方に影響
 を与えることから、男女が共に参
 画することが必要です。
 みなさんの日常生活と密接に関
 わる「政治」の視点から講演会を
 開催します。

日米女性指導者交流プロジェクト
公開国際シンポジウム

開催内容/11月11日(日) 午後 パネルディスカッション
 (テーマ、「高齢者介護」)
 11月12日(月) 午後 公開円卓会議
 (テーマ、「女性に対する暴力」)
 開催場所/福島県男女共生センター 研修ホール
 入場料/無料
 同時通訳あり

ジャパン・ソサイエティー共催、日米女性指導者交流プロジ
 エクトの一環として、来日する米国の女性リーダー8名(州
 議会議員4名、NGO代表4名)を招いた公開国際シンポジウ
 ムを、福島プログラムとして開催します。

男女共同参画テーマ別講座
「働く」を考える

ライフスタイルが多様化している現在、「働き方」について考えてみ
 たい方、意見交換をしてみたい方。年齢・性別を問わず歓迎しま
 す。(第1日目/2日目は9月に開催。一部日程のみの参加も歓迎)
 第3日目/10月7日(日) 午後1時30分～4時
 テーマ/「パパの子育て」どのような支援策が必要か?」
 第4日目/10月13日(土) 午後1時30分～4時
 テーマ/「男女共同参画社会における労働市場の行方」ゆ
 とり創出の展望と課題」
 定員/30名
 締切/各回とも開催日1週間前の午後5時到着分まで
 開催場所/福島県男女共生センター 第3研修室
 受講料/無料
 無料託児(事前予約制)あります。

男のための応援専科
男らしくより自分らしく

「男らしさ」とはわからない新しい男の生き方についてみなさんと
 一緒に考えてみたいと思います。
 第1日目/10月14日(日) 午後2時～4時30分
 ビデオ上映&ディスカッション「男たちの気づき」ビデオ「い
 夫、男たちが変わりはじめよう」
 講師：メンズリブ東京代表 豊田正義氏
 第2日目/10月21日(日) 午後2時～4時30分
 ワークショップ「もっと上手にコミュニケーション」対人関
 係トレーニング」
 講師：福島県教育庁生涯学習課 社会教育主事 天野和彦氏
 第3日目/10月28日(日) 午前10時～午後1時
 実習「男の料理体験」(簡単料理からはじめよう)」
 講師：(有)丸宗商店社長 佐藤繁夫氏
 参加対象/男性 定員/20名
 締切/10月7日(日)到着分
 開催場所/福島県男女共生センター 多目的研修室・調理室
 受講料/無料
 無料託児(事前予約制)あります。

第3回地域女性リーダー養成講座

地域で活躍する女性リーダーの養成、とりわけ市町村の各種審議会
 委員会などで政策や方針決定に参画できる人材の養成を行います。
 開催日程/前期10月27日(土)～10月28日(日)
 後期11月23日(祝)～11月24日(土)
 募集定員/50名 応募者多数の場合は調整させて
 いただくことがあります。
 開催場所/福島県男女共生センター 第2研修室
 受講料/無料(ただしセンター宿泊費1泊2食付
 6000円×2回は受講者負担)

平成13年度
女性就業援助技術講習会

パソコン初級
 ワープロ(初めての方向き)または、表計算(文
 章入力ができる方向き)ソフトを使用し、各技能
 検定3級合格を目指します。
医療事務
 診療報酬明細書(レセプト)作成実務の習得を目
 指します。

簿記3級

商業簿記を基礎から学び、検定試験「簿記3級」
 (日本商工会議所主催)を目指します。

簿記2級

商業簿記・工業簿記を学び、検定試験「簿記2級」
 (日本商工会議所主催)を目指します。

講座名	講習期間	開催場所	定員	募集締切
パソコン初級講習会	10/2(火)～11/7(水)	富岡町 商工会館	20人	申込方法は、広報等で別途お知らせいたします。
	11/20(火)～12/27(木)	いわき合同庁舎分庁舎	20人	
	1/8(火)～2/13(水)	白河地域職業訓練センター	20人	
	1/9(水)～2/8(金)	郡山地域職業訓練センター	20人	
	1/10(木)～2/15(金)	ポリテクセンター会津	20人	
医療事務講習会	1/10(木)～2/21(木)	福島県男女共生センター	20人	
	11/2(金)～12/20(木)	福島県男女共生センター	24人	
簿記3級講習会	12/21(金)～2/20(水)	福島県男女共生センター	24人	
	11/19(月)～2/22(金)	郡山地域職業訓練センター	24人	
簿記2級講習会	1/8(火)～2/22(金)	いわき合同庁舎分庁舎	24人	

「見学案内ボランティア」

見学のみなさんに、館内のご案内をしています。

今回ご紹介する「見学案内ボランティア」は、当センターの見学を希望する各団体・グループの皆さんに、当センターの施設についてわかりやすく説明をしながら、館内を案内する活動をしています。

見学案内ボランティアで大変なことは？

「初めてお会いする方と話をすることに慣れていないので、このボランティアをはじめました。施設の紹介はまだまだですが、自分らしさを出して案内できるようにしたいです。」
(ボランティアの加藤淳子さん)

「自分がセンターに来たとき、案内する人がいればいいなと思って希望しました。前もって勉強してもつまく説明するのは難しいですね。」
(ボランティアの水田良子さん)

「まだ、案内が終わるとホッとしてしまうくらいレベルですが、もっといろいろ覚えて見学の皆さんに満足して帰っていただきたいです。」
(ボランティアの熊田和子さん)



館内にあるタッチパネルの説明をしている加藤さん



1階エントランスで見学の方の質問に応じる水田さん(中央)



研修ホールで説明をする熊田さん(中央)



宿泊室

研修室

室名	1人で利用の場合	2人以上で利用の場合
ツインルーム	4,200円	3,800円
和室	4,200円	3,800円

宿泊室

研修室名	定員(人)	面積(m ²)	その他	
			1使用単位	
研修ホール(1F+2F)	400	499	14,000円	
多目的研修室	20	73	2,000円	
特別会議室	20	56	2,000円	
第1研修室	25	40	1,000円	
第2研修室	全面使用	110	4,000円	
	ホールA	60	87	2,000円
	ホールB	50	63	2,000円
第3研修室	全面使用	50	88	2,000円
	ホールA	25	44	1,000円
	ホールB	25	44	1,000円
第4研修室	25	37	1,000円	
第5研修室	32	74	1,000円	
調理室	16	62	2,000円	
工作室	20	40	1,000円	
研修用和室	10	22	1,000円	

研修室

男女共生センターの研修室等は、センター主催の講座等を開催していないときに、どなたにでもお貸しします。

男女共生センター施設利用のご案内

申込み手続き等の詳細については、センターにお問い合わせください。

☎0243 - 23 - 8301 (代)

男女共同参画を推進する活動で使用する場合は半額です。料金は1使用単位での金額です。1使用単位は、午前(9:00~13:00)、午後(13:00~17:00)、夜間(17:00~21:00)の各々です。



センターからのお知らせ

当センターの福祉機器展示室では、約600点の福祉機器・介護用品を展示しております。実際に触れたり、体験したりもできます。

福祉機器展示室内に、高齢者が暮らしやすい住環境を整えた『高齢者モデル室』を設置してあります。
その他、福祉機器や介護用品についてのご相談も承ります。
どなたでも「自由に」ご覧いただけますので、お気軽にご利用ください。
詳しくは、

「男女共生センター福祉機器展示室（1階）」

☎ 0243 23 8316

☎ 0243 23 7863

までお問い合わせください。

編集後記

・先日、「新しい広報紙はまだですか？」と尋ねられ、楽しみにしてくれている人がいるんだなあとうれしくなりました。(MF)

・今回のインタビューに答えてくださった方は、はくしく自然に「男女共同参画」してました。男にしかできない、女にしかできないなんて、実はなかったりするんですよ。そのことを最近知ったことと、今まで全然考えないで生きてきたことに驚いています。(OT)

・「自分らしさ」とは、自己発見の旅。今の自分が本当の自分であるのかどうか、時々立ち止まってじっくり考えてみることも必要なのではないでしょうか。(KT)



access



所在地 / 二本松市郭内一丁目196-1



JR東北本線 二本松駅より徒歩12分
東北自動車道 二本松I.C.より車で5分



風情豊かな城下町から世界へ情報発信

東の阿武隈高地、西の奥羽山脈により中通り、会津、浜通り地方に三分されている福島県は、火山や湖沼・高原・海岸など豊かな自然に恵まれています。ここには、「智恵子抄」にうたわれた「あの光る阿武隈川」や「ほんとの空」があり、人・モノ・文化・情報の活発な交流が行われています。

「女と男の未来館」のある二本松市は、中通りに位置し、提灯祭りや菊人形が催され、風情豊かな城下町です。

未来館NEWS NO.3 2001年9月

編集・発行 (財)福島県青少年育成・男女共生推進機構
福島県男女共生センター ~女と男の未来館~
〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
☎0243-23-8301(代) ☎0243-23-8312
ホームページアドレス: <http://www.f-miraikan.or.jp>
メールアドレス: mirai@f-miraikan.or.jp

表紙の作品
風のしわざ 64pcs. (近藤 康広)

